

## 「地域の論点」

### 地域スポーツと活性化

南石堂町商店街振興組合

パルセイロ活性化委員会担当 齊藤 寿博

長野駅前の南石堂町商店街振興組合でパルセイロ活性化委員会を担当し、委員会では副委員長をしています（2020年1月に委員長就任）。「パルセイロ活性化委員会」は、地域密着型スポーツクラブであるAC長野パルセイロを応援するために長野駅周辺5商店街で組織する善光寺口商店会（ナガノ駅前センター、長野駅前商店会、南石堂町商店街、北石堂町商店街、長野銀座商店街）で2012年に立ち上げたものです。

『街がスポーツを育て、スポーツが街を活性化させる』を合言葉に地域スポーツをサポートしていくことで、サポーター<sup>1</sup>を商店街に取り込み、経済循環を良い方向に回しけるよう活動し、広く商店街や長野という街をアピールできるよう頑張っています。

### パルセイロを応援するようになったきっかけ

まず、南石堂町商店街振興組合と関わるようになったきっかけですが、当時、株式会社こおむら<sup>2</sup>へ就職したことから始まります。私は営業や仕入れを主に担当していました。街の中で仕事をしているとたくさんの方々と知り合い交流が生まれました。すでに株式会社こおむらは退職していますが、お世話になった街への恩返しの気持ちで商店街の催し物などの際は協力させてもらっています。

パルセイロを応援するようになったきっかけは、婿がパルセイロの前身である長野エルザの選手だったことです。ここでサッカーの面白さを知り、本格的なサポーターとして応援するようになりました。応援していくうちに長く商店街にいたこともあり、地域スポーツと地域活性には親和性があると感じるようになりました。そんな中、善光寺口商店会を中心とした「パルセイロ活性化委員会」が設立され、私の感じていた親和性を現実として行っていく団体のできたのです。設立から少し経った頃に商店街で交流があった仲間から誘われて、今日まで続くライフワークと呼ぶべき活動を始めました。

### 地域スポーツと活性化について考えること

一昔前まで地域スポーツと言えばサッカーでした。パルセイロも現在ではバドミントンやアイスホッケーなど複合的なスポーツクラブに拡大していますが、もちろん最初はサッカーからのスタートでした。地域スポーツと一口に言っても今ではサッカー、野球、バスケットボール、フットサルなど多くの種類があり、それぞれにファンがいて地道な活動を続け

---

<sup>1</sup> スポーツによりチームを支える人・応援する人の呼び名は異なるため、本稿では文脈に合わせて都度異なる表記で対応する。

<sup>2</sup> 南石堂町商店街にある生地全般を取り扱う繊維製品の専門店

ています。それぞれが魅力あるチームで地域に根差した活動をファンとともにやっていることは素晴らしいことですし、持続すべきことです。しかしながら、今後の地域スポーツと活性化を考えた場合、まず前段として複数あるスポーツを“地域スポーツ”として捉えて、“オールワン”を目指していく必要があると考えています。一つの地域で複数のスポーツによる相乗効果に知恵を出し続けなければなりません。

“オールワン”の捉え方の例として、2019年のラグビーワールドカップが良い例かと思えます。「ONE TEAM」を合言葉に出身7か国の選手が一つとなり初のベスト8進出を果たしました。その活躍は観ている者の共感を呼び、全国各地に設けられた無料のパブリックビューイングには、多くの人々が訪れ、入場規制が行われるほどの賑わいを見せました。また、全国1万3千人のボランティアの人たちは各所で運営補助を担い、笑顔で観客を迎える姿は会場を訪れた皆さんの満足度の向上に貢献しました。こうした一連の動きや共感の連鎖は、ラグビーという一つのスポーツに留まらず、私たちのような地域スポーツを応援している者にとってもヒントとなり、目指す方向性の一つになったように思えてなりません。

## 共感を得ていくために私たちが見据えるもの

### ①街へ人を呼ぶ…“伸びしろという可能性”

長野県の地域スポーツというと、J1経験もあるプロサッカーチーム「松本山雅」がまず思い浮かびます。松本市周辺ほどの盛り上がりではないかもしれませんが、長野市周辺でもサッカー、バドミントン、アイスホッケーと活動を広げているAC長野パルセイロ、フットサルのポアルース長野、バスケットボールの信州ブレイブウォリアーズ、野球の信濃グランセローズと多くのスポーツチームがあります。純粋なファン層だけで考えても展開次第で伸びしろは十分にあると考えています。

その伸びしろを十分に活かし、ファンがスポーツ間で交流を進めるようにするために、例えば、競技場と主要駅間のアクセスの向上をより具体化するとともに、複数のスポーツを楽しむよう団体間でスケジュール調整を実施し、それに伴い長野駅を中心としたアクセスバスのハブ化を進めるなど、アクセスにストレスがかからない体制づくりが求められていると感じています。主要駅を中心とした応援アクセス網を形成するためにチーム、交通事業者、後援会などが連携した取り組みを行い、そこに主要駅周辺の商店街をはじめとする事業者も輪に加わることが重要です。私は、応援しやすい環境を整え、地域全体に賑わいを取り戻し、購買活動が活発になるよう動きの一助になればと思っています。

### ②『地域×スポーツ×観光』

前述してきたように、街に人を呼ぶためには今の時代“グローバル”な視点は欠かせないとも考えています。例えば、観光をインバウンドに向けてみると長野県はオーストラリアからの割合が多いというデータがあります。彼らはスキーを目的として訪日することが多く、雪がある環境下でのスポーツをしに来ているわけです。私たちが応援している地域スポ

ーツとスポーツという意味では括りは同じなので、スキー+αの+α部分を多角的に企画していくことはできないかと最近をよく考えています。例えば、スキーと地域スポーツを絡めた企画に観光の要素を取り入れる。そして、街のおもてなしという要素も加えてさらにもう一泊してもらう。中山間地域と中心市街地の回遊を楽しむことができるパッケージを組めれば、『地域×スポーツ×観光』としての発展が望めるのではないのでしょうか。今後はさらにグローバル化、多様化が進んでいくと思います。

## パルセイロ活性化委員会の役割とは

端的に申しますと、これまでの活動は尊重しつつも地域スポーツを活性化するという目的を掲げてバージョンアップさせてはどうかと思います。民間同士の相乗効果は無くてもならないものですし、応援している人たちの中にはこうしたことに関わりたいと思っている人はたくさんいます。“オールワン”になるよう団体間の橋渡しをしていきながら、団体間の意見をまとめて提案を続けて、多くの人たちに活動を説明して楽しく参加してもらえよう言い続けることが今後の役割の一つだと思います。

## 地域スポーツと今後の展開

地域スポーツを捉える中で現在は大きく分けて3つの流れがあると考えています。それは、①スポーツとしての流れ②その街や商店街としての流れ③行政の流れです。①は1993年のサッカーJリーグの発足を起点に動き出した地域にスポーツが根付いていった流れです。②は①に伴い各地がホームタウンとしてチームや選手を応援し、バブル崩壊後に暗い影を落としていた街に賑わいを取り戻し、経済活動の活性化を目指した今日までの流れです。③は①と②に呼応する形で各自自治体が新たな目玉としてスポーツに目をつけて、これまで様々な支援を行ってきた流れになります。

どれも大切な流れですが、長野市周辺ではどうしても個々だけの活動が目立ち、一緒になってやっていくという方向性が明確でないように感じられます。この3つの流れをどうマッチさせていくか。それぞれが歩み寄り理想としているものを現実レベルまでどう落とし込むか。私はこれから「理想を現実近づける役割」ができればと思っています。

最後になりますが、理想を描きみんなで共有しながらも、できないことをやろうとせず、格好だけをつけるのではなく、地域に根付いたことを地道にやっていく、続けていく。そうしたことが10年20年先の地域を明るくしてくれる道だと思っています。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2019年11月20日にインタビューした内容を編纂事務局でまとめたものです。